



私のお念仏（四）

宮島千秋

六月十日

葬儀

私は知識浅い者ですが、およよその世の中で正し

いということは致少ないのではないかと思ひます。

太陽が東に上り西に沈むこと、物が上から下に

落ちること、有難い空氣というものがあること、

生命あるものは必ず死んでゆくということ等と思

います。がその他正しいと思われることはすべて私たち人

間の身勝手なしあわせのために、また「私」を中心

に考えられたいわゆる正しいことばかりだと思いま

す。

気の毒な人があつても心から助けてあげられない

自分に都合が悪ければすぐ人に非難して腹を立て

る。他人が都合よくゆけばうやまじがるどころか

ねたむことだつてある。どうしても正しい道など歩

めない私であります。自分も気づかぬ間に苦の道題

の道に進んでしまつてあります。

苦しい人生にありながら一時的な喜びをさがし求

めて、ごまかし合つたりなぐきめ合つたり、またあ

えて享樂におぼれようとするのです。とうてい正し

い行いなど出来っこない私なのだと思います。

いつかご院家様のお説教のなかに「私は子どもの

ためにこれだけ尽してあげたのに」という「のに」

ということについてお話をあつたことを思い出しま

す。

いくらしてやつているのにも思つていても、こち

らがあてにしているような代價はかえつてしま

そで腹を立てたりしてしまいます。

要するにみんな何でも自分のためだけを考えてし

ているからだと思ひます。

そんな思いのなかで家の申をふりかえり子どもの

ことを考えてみますたびに、そこに見にくく我利我

利の私がうつし山されているようで、考えさせられ

教えられることが多いこのごろです。

子どものためにだとか他人のためにだとか偉そう

ここ四十年ばかりの間、子や孫たちは多く男たちの民主的とか科学的とかそ

んな理屈のスチール箱のなかで教育され

てきたようです。涙やお乳のにおい

や子守歌などはしりぞけられ通してし

ました。しかしやつぱりそんなところには子どものいのちはいきづかないことがわか

つきました。

もういちど、おばあちゃんのあの子守

歌をうたつてやりましょう。

もういちど母の心に子の心を聞きとつ

てやりましょう。

「研修旅行」御礼

六月九日十日、恒例行事として行なわれてきた

仏社仏婦の「研修旅行」を行ないました。参加者

三十六人。ご本山参拝の後大谷さまえ納骨参拝致

しました。比えい山コースはまさに絶景。第二日

木辺派のご本山に参り草津順光寺の總代仏社役員

こそつての歓待を受けました。後半雨でしたが力

ラオケもはずんで華々しく有意義な旅でした。

この行事にお寄せいたいたご芳志に心からお礼

を申しあげます。

酒

永井貞雄様・平野 隆様・田中保夫様・勝林寺

様・亀井 孝様・坂本 澄様・湯口千代様・

金一封

久井幸男様・永井 勉様・中島有隆様・石坪

久男様・生田善七様・大石正和様・谷垣逸雄様

星酒

宮島千秋様・衣川齋一様・

「永代経」参拝マイクロバス時間

栗尾バス停発六時三十分→正法寺六時四十分

一 小谷六時四十五分 一 出合六時五十分

市場六時五十五分 一 矢根七時

櫻見七時二十分 一 坪口七時二十二分

「念佛奉仕団」出発

出石組仏婦連盟「念佛奉仕団」が七月二日三日

上京します。

参加者百五十四名。うち勝林寺門徒は十八名で

す。この一年に亡くなられた方の十三のご遺骨を

住職・坊守・遺族とともにお供をして大谷様へ納

骨いたします。

総会出席者数を七月六日迄にご報告下さい。

お嬢さんの氏名・世帯主名・出席の有無を七月六日迄

にお知らせ下さい。

④ 当日九時半に開会できますようご協力下さい。